



発行 八潮市文化財保護課(資料館)  
 令和8年3月【第2版】  
 住所 埼玉県八潮市大字南後谷763番地50  
 TEL 048-997-6666

\*見学時には、マナーに十分ご留意ください。

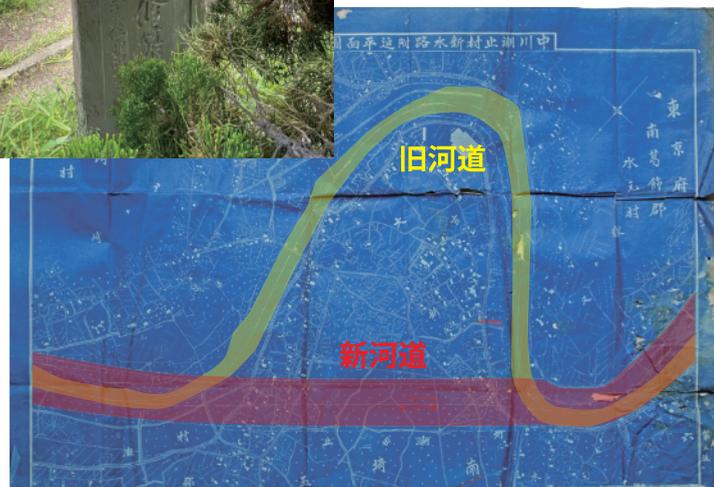
## 八潮誕生までの道のり

9世紀後半ごろから始まったこの地域での暮らしは、江戸時代に利根川や荒川の流れを替えたことで河川水量が安定し、さらに用水の整備を行ったことで中川低地の新田開発が進んだことで、豊かな穀倉地帯へと変貌を遂げました。ほぼ現在の大字に相当する20の村の多くが、この頃に成立したと伝わります。中川・綾瀬川沿いには河岸場が設けられ、船を使って農作物や下肥などの輸送が行われました。この水運の発達には新たな産業の振興をもたらし、地場産業の染色業はその一つです。市域は木綿の集積地である岩槻と消費地・江戸を結ぶ水運ルート上にあり、また農閑期に余剰労働力があること、作業に必要な水が豊富であることなどを理由に、染色業が農家の副業として盛んに行われるようになりました。陸上交通では「下妻道」と呼ばれる日光道中の脇往還が縦貫し、往来する人びとで賑わっていました。(参照:おすすめルート①)



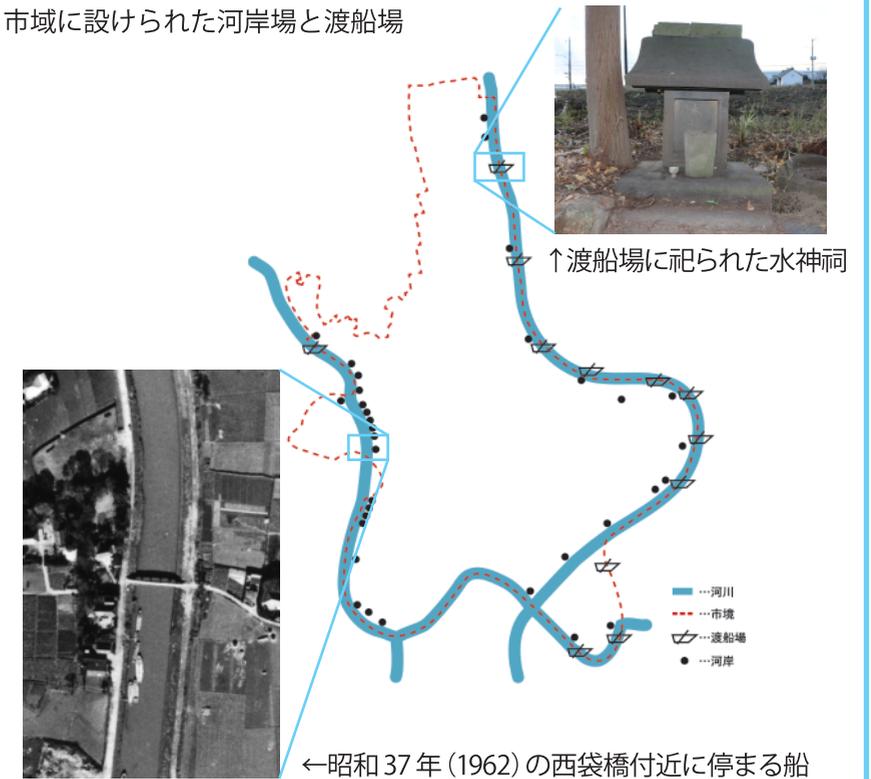
綾瀬川堤防修築記念碑

明治43年の長雨で決壊した綾瀬川の堤防を修築した際の記念碑です。明治44年3月に起工し、およそ1年かけて工事が行われました。



大正期の中川潮止村新水路附近平面図

市域に設けられた河岸場と渡船場



↑渡船場に祀られた水神祠

←昭和37年(1962)の西袋橋付近に停まる船

明治時代になると各村は3つにまとまり、松之木村連合、伊勢野村連合、上馬場村連合を組織します。この連合が後に八條村、潮止村、八幡村となります。

河川に囲まれる市域では、度々水害に遭うために避難用の水害予備船を蔵の軒先に吊るしたり、水塚と呼ばれる1m前後の盛土の上に蔵を建ててきました。しかし明治43年(1910)8月に大水害が起こり、八幡村内の綾瀬川が3箇所決壊して総戸数の9割以上が浸水、八條村・潮止村も大きな被害を受けました。これにより中川改修計画が見直され、大瀬地区で大きく湾曲していた流路が大正時代に直道化されました。

昭和28年(1953)には町村合併促進法が公布されます。八條村、潮止村、八幡村の合併協議はなかなか合意に至りませんでした。昭和31年(1956)によようやく3村の頭文字をとって「八潮」村が誕生します。その後、高度経済成長による工場の進出や人口増加により発展を続け、昭和39年(1964)に八潮町、昭和47年(1972)1月15日に八潮市となり、令和4年(2022)には市制施行50周年を迎えました。